



柿 特報 No.2

R6.4.17

J A 中野市営農センター

J A 中野市柿研究会

定期散布を徹底し、高品質な柿を生産しましょう！

生育は昨年より 10 日程度遅れています。病虫害の防除は予防を意識し、早めの散布を実施しましょう。また、5月に入り高温が続くとカイガラムシの早期発生が予想されます。カイガラムシが多発すると原料柿に悪影響を及ぼすため、発生園では必ず防除を実施しましょう。

病虫害防除

中野市管内：発芽日 4/8

(昨年比+7)

◎5月上旬（5月5日頃まで）の薬剤散布

●収穫前や収穫中の作物に飛散しないよう、十分注意する。

散布薬 剤	水	100ℓあたり	散布日 月 日
	展着剤（ハイテンパワー）	10ml	散布量 ℓ
	サムコルフロアブル 10	20ml	(前日、3回以内)
	劇ダイアジノン水和剤 34	100g	(45日前、4回以内)
対象病虫害	ハマキムシ類、オオワタコナカイガラムシ、カキノヒメヨコバイ、 カキノヘタムシガ、ケムシ類、ハスモンヨトウ		
散布量	10a当り 400ℓ *若木の場合、樹体に十分かかる量を散布する。		
注意事項	①ダイアジノン水和剤 34 は、劇物登録農薬のため購入の際は印鑑をお持ちください。 ②訪花昆虫保護のため、散布は早朝（朝6時頃まで）に実施する。 ③主幹害虫（カキノキマダラメイガ・ヒメコスカシバ）の発生がある場合は、ガットサイドの1.5倍液（45日前、2回）を主幹部・主枝及び亜主枝の分枝部に塗布する。目安：100~1,000 ml/樹		

防除の際は必ず栽培日誌に記帳しましょう

次回（予定）：5/2